

Dedicated to all researchers. Datability For All.

私には関係ないと思いませんか？

You might think that Datability has little to do with you, right?

データビリティフロンティア機構が2016年4月に発足し、
すでに部局を横断するいくつもの研究プロジェクトが動き出しています。

大阪大学で行われる研究の加速装置と期待されるだけに、実際に私たち教職員にこういった形で関係するのか、

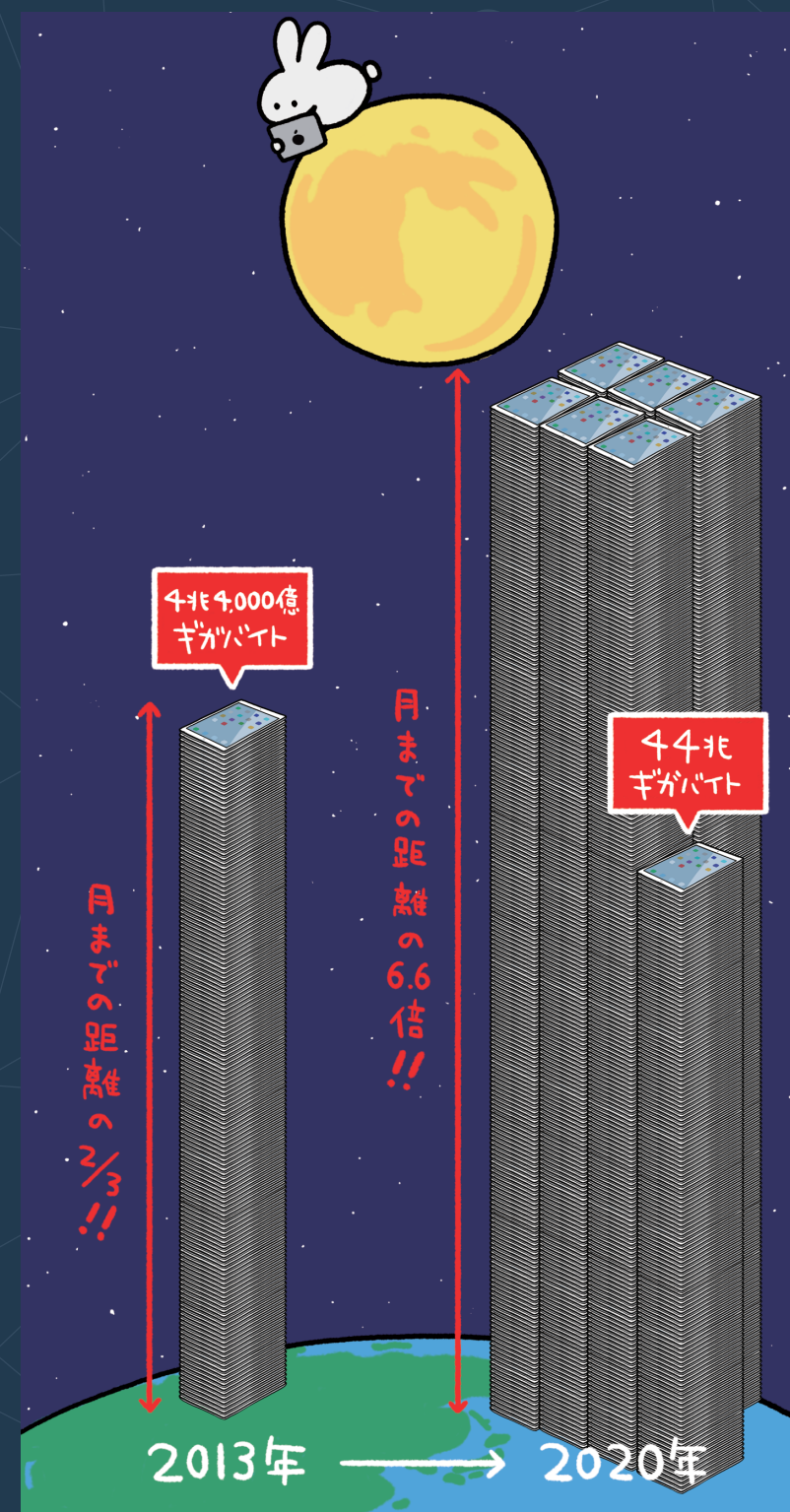
どんなメリットがあるのかを把握しておきたいところです。

データビリティから広がる様々な可能性を見ていきましょう。

そもそも「データビリティ」って何だろう？

「データビリティ (datability)」とは、「大規模なデータを持続可能かつ責任ある形で活用する能力」のことです。

【CeBlit2014(ドイツ、ハノーバー)にて提唱】



IDCが実施したデジタルユニバースの調査。
「The Digital Universe of Opportunities: Rich Data and the Increasing Value of the Internet of Things」より



どうして、いま、
データビリティ？

Datability? Why now?

全世界に存在するデジタルデータの総量は、膨大かつ指数関数的に拡大し、約2年に2倍ずつ増える傾向にあるようです。例えば、IDC社の調査によれば、iPad Air (厚さ約7mm、本12万8千冊を記憶できる128ギガバイト) に世界の全デジタルデータを保存して積み上げたとなると、2013年では、月までの距離の3分の2の距離に相当する量であったものが、2020年には、月までの距離の6.6倍に相当する量になるだろうと予測されています。

エクサ (10の18乗) バイトを超えるビッグデータが毎日のように生成されています。この超大量データの迅速な解析と効果的な活用により、いかに有用な情報や知識を取り出すが、さまざまな科学技術分野ひいては社会の発展において重要な鍵となります。

そこで大阪大学では、ビッグデータの利活用促進を目指し、「データビリティフロンティア機構」を立ち上げました。兼任教員、協力研究者は100名を超え、この4月から専任の教員も着任しました。

こんな悩みを持つ研究者の方はぜひご相談ください!

研究で、膨大な生データを扱うが自分は解析のプロではない。統計学に精通した研究者と共同研究を行いたい、適切な研究者の知り合いがない……。

ビッグデータを扱うことで、自身の研究を次のステージに進ませたい!

どこかに自身の研究に有用なデータを持っている研究者はいないだろうか?

データビリティフロンティア機構のマッチングシステムを活用し
ビッグデータを制して、研究を一つ上のステージへ!

データビリティフロンティア機構

企画室

知能情報基盤部門

統計学、数理科学、機械学習、データマイニング、
知覚情報処理(画像、音声、自然言語)、
知能ロボティクス、感性情報処理

ビッグデータ社会技術部門

知的財産、倫理的・法的・社会的課題、セキュリティ

サービス創出・支援部門

ネットワーク、データベース、セキュリティ、計算機システム

研究者
マッチング
システム

マッチング

学内既存部局

16 研究科

5 附置研究所

学内共同
教育研究施設

学際研究推進

学際研究プロジェクト

分野を問わず。 データの扱いに悩む 研究者の強い味方に!

A strong ally to researchers having trouble handling data, regardless of their field!

データビリティフロンティア機構には、数理科学、統計学、知能情報科学、情報システム、知能情報処理(機械学習、人工知能)、社会技術等のデータビリティ基盤部門研究者があり、学内既存部局からの要望や学内シーズ探索によって、分野問わず、芸術、人文・社会科学、医歯薬、理工系分野等の研究者

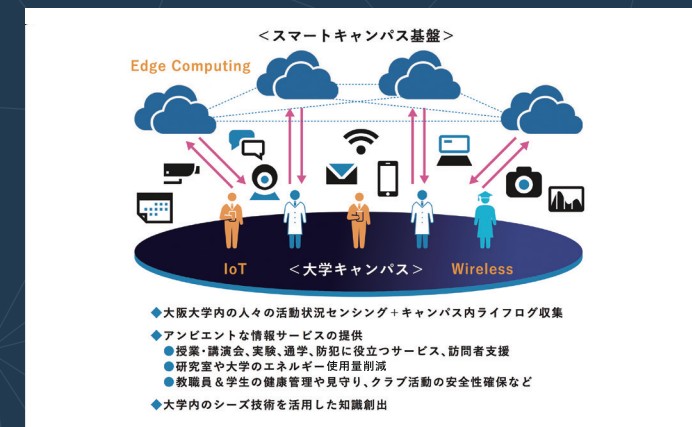
との研究者マッチングを行います。例えば、医学系研究科の研究者が蓄積した医学・医療データに対し、研究者マッチングによって数理科学、統計学分野の研究者がデータ解析手法に基づいてデータの特徴量を提案するなど、新たに始まった共同研究プロジェクトは、すでに20を越えます。

データビリティフロンティア機構では、データ駆動型研究スタイルを導入し、様々な分野で新たな学問領域を創成するなど、データの利活用に関する支援を行っています。データの利活用に関するご質問・ご相談は、お気軽に「なんでも」お問い合わせください。

[連絡先]
TEL : 06-6105-6074
E-mail: contact@ids.osaka-u.ac.jp
WEB: www.ids.osaka-u.ac.jp/

データビリティフロンティア機構では、こういった研究者マッチングの他に、普段データを扱わない教職員も参加できる以下のプロジェクトに取り組んでいます。

このプロジェクトをはじめ、データを扱うには倫理的、法的及び社会的影響並びに知的財産及びセキュリティに関することが課題にあがります。データビリティフロンティア機構では、こういった課題を専門とする研究者で構成する部門があるのも大きな特徴のひとつです。



超スマートキャンパスプロジェクト Super Smart Campus Project

大阪大学のキャンパスを超スマートシティと想定した1,000人エキストラによる群衆行動データや、教職員ボランティアによるライブログデータの収集など、大学という公共性を利用し、「オプトイン」による匿名化被験者データ収集を行い応用研究に繋げようとしています。

この超スマートキャンパスプロジェクトは、大阪大学構内での実証実験を通じて、屋内外における人物行動解析のためのデータや、防犯カメラ等のIoT技術を社会実装する際の社会同意プロセスに関するデータを収集し、人々が健康で豊かに生きるための様々な分野の新しい製品・サービスを創出することを目指します。実証実験のフィールドは新箕面キャンパスや、うめきた2期構想にもつなげていきます。



健康・スポーツプロジェクト Health / Sports Project

大阪大学のスポーツサイエンスに関しては、「大阪大学COI拠点」によるセンシング技術開発、「スポーツ研究イノベーション拠点形成プロジェクト(SRIP)」によるスポーツ現場での研究・実証などの実績があります。

機構はビッグデータの収集と利活用などを加え、これらを「サイバースポーツコンプレックス構想」として統合し、新たな価値の創造を目指します。